

JOLA2024 総括 ～選考にあたって～

Message from the selection committee



2024年のアワードは、北海道から沖縄まで、全国から51名のエントリーがありました。

下記の流れで審査及び最終選考を行いました。

一次審査

1

1名のエントリーに対して、運営委員から3名を選出し、JOLAループリックの各項目について5点満点で審査を行いました。

2

運営委員会で、3名の審査得点の合計点で高い得点を得た9名を選出しました。

3

今後特に活躍が期待される上位2名を選出しました。

最終選考

1

今後活躍が期待される2名のノミネートをそのまま奨励賞として選出しました。

2

ノミネート9名のうち、6名を優秀賞として選出しました。

3

優秀賞の中から、大賞1名、特別賞1名を選出しました。



豊原 豊
Kibihara Yutaka

一般社団法人三陸駒舎共同創設者・理事

若手県釜石市の築100年を超える古民家をベースに、馬とのかかわりを手法とした人づくりを实践。馬とのやり取りを通して、自分自身を見つめ、成長を促していく。馬と自然との暮らしから、人間としての土台作りを軸を置いているその姿勢、考え方や哲学、地域とのかかわりがJOLAの理念に最も合致すると考え、大賞に選出いたしました。



鹿谷 麻夕
Shikatani Mayu

しかたに自然案内 代表

沖縄の地で、「美しく豊かで健やかな海を次世代に残していく」ために、自然観察会をベースとした環境教育の取り組みを実直に続けている鹿谷さん。専門的な知識に裏付けられた質の高い活動、ポジティブな思考で地域に寄り添い、地域の人々自身が環境保全のアクションを起こしていくことを支える姿勢は高く評価されるものであり、特別賞に選出いたしました。



武宮 敬介
Takemiya Keisuke

自然体験村代表/日本ジョセササイズ協会南魚沼支部長

新潟県南魚沼における、自然体験キャンプの運営。学生ボランティアのコミュニティ運営。ネットワークを活かした若手の育成研修。それぞれの活動の「継続性」や「影響力」を評価いたしました。また、継続性や影響力に繋がる「キャラクター」「発想の独自性」を評価し、優秀賞に選出いたしました。



川口 眞矢
Kawaguchi Michiya

NPO法人Earth Communication 代表理事

静岡県御前崎市で自然体験とさまざまな地域資源の組み合わせで、子どもたちの体験の機会を实践。「自然体験活動で人を育てる」がなかなか理解されない現実からスタートし、現在では御前崎市、静岡県、国土交通省等と一緒に海や里山での活動を実施。地域のつながりを大切に人づくりの場を創出していくその姿勢と継続性がJOLAの理念に合致すると考え優秀賞に選出いたしました。



真野 博
Mano Hiroshi

城西大学 教授/高麗川かわガール 代表

埼玉県を流れる高麗川を中心に荒川水系の河川を活用し、老若男女を問わず、川漁、リバーウォーキング、ネイチャーウォッチングの体験を通じた環境教育と食育を实践している。アカデミックな広がり、伝統を大切にしている地域連携、大学。「コラボレーション力」と自らおっしゃっている「巻き込み力」が真野さんの大きな魅力と考え、優秀賞に選出いたしました。



佐藤 伸幸
Sato Nobuyuki

ヨロン島エコツアーガイド連絡協議会
与論島観光エコツアーガイド 代表

鹿児島県与論島において、島の伝統文化を伝え、人と自然の関わりを見つめ直すガイドを続ける佐藤さん。その、「活動から滲み出る覚悟」「世代、考え、価値観の違いに向き合い、地域の仲間と関係を創り続けるプロセス」が、JOLAの価値観と強く繋がると考え、優秀賞に選出いたしました。



花嶋 桃子
Hanashima Momoko

NPO法人千葉自然学校職員/南房総市大房岬自然の家副所長

自然学校の職員、青少年教育施設の副所長として、「人づくり」「組織づくり」「地域づくり」に真摯に向き合い、ていねいに実践を積み重ねています。これからの活躍が大いに期待される人物として奨励賞に選出いたしました。



岩野 萌
Iwano Moe

NPO法人ガイア自然学校 Chief Operating Officer

ガイア自然学校で活躍する若手リーダーの岩野さんは、「キャンプリダーという存在が大好きだ」と瑞々しい感性で、参加者の様子をくまなく捉えた評価シートを作成。この参加者とアウトドアの場を見つめる視点、言葉からあふれる情熱と感性が高く評価されました。15年の活動を経てもまだ若く、今後も様々な活躍される人材として奨励賞に選出いたしました。